

OECD特集

第一部 税財政部門で活躍する人たち

OECD租税委員会 (CFA) 議長

OECD租税センター (CTPA)

OECD行政局 (GOV) 財政課インターン

浅川 雅嗣 副財務官

山崎 翼 参事官

濱田 秀明 (コロンビア大学院留学中)

(案内役 OECD代表部 中村 英正 参事官)

「『OECDという名前は聞いたことがあるけど、何をしているところか良く知らない』という人のために、ファイナンスで特集を組みましょう」という依頼が先代の編集長からありました。押しの強い人でしたが、夏にご栄転されました。秋になり、これまた押しの強い後任の編集長から、「例の件、引き継がれています。宜しく願います」と念を押されました。かねてよりOECDを多くの方に知ってもらいたいと考えていたので、この機会にOECDで活躍されている方々に焦点を当てて、その活動をご紹介させて頂くことに致しました。

今月号では税財政部門を取り上げ、租税委員会 (CFA) 議長の浅川副財務官、租税センター (CTPA) の山崎参事官、行政局 (GOV) 財政課でサマージョブを行った濱田君 (コロンビア大学院留学) の活躍ぶりをご紹介したいと思います。

その前に、前説を少々。

●OECDの構造 —委員会と事務局—

OECDの最高意思決定機関は理事会であり、閣僚理事会が毎年5月、通常の理事会(各国大使出席)が月1回開催されます。その下に、税財政・金融からマクロ経済、開発、環境、教育、農業などを所掌する各委員会がぶら下がり、経済社会政策のほぼ全てをカバーしています。委員会には、各国の政策担当者・代表部担当官が出席し、それぞれの分野におけるOECDの活動方針・提言などを決定します。所掌が様々な分野にわたることもあり、

各委員会の独立性は強くなっています(この点は、世銀・IMFなどのfinanceに重点を置いた機関と異なる点でしょう)。

他方、各委員会の活動を支えているのが事務局です。OECDの事務局は、事務総長(アンヘル・グリア<メキシコ>)、4人の事務次長(内1人は玉木林太郎前財務官)をトップに、各委員会とほぼ対応する形で租税センター、金融企業局、経済総局といった各部局が並びます。事務局は各委員会の下でペーパー・レポートの作成、委員会のマネジメント、フォーラムの開催、OECD非加盟国関連の活動などを行っています。

両者の関係は国会の各委員会と担当省庁との関係を思い浮べて頂くと、イメージし易いのではないかと思います(イメージ図をご参照下さい)。

●議長・副議長

OECDでの議論の進め方として特徴的なのは、多数決ではなく、コンセンサスを基本としている点です。したがって、各メンバーから賛否の意見が交錯する中で、議事進行を進め、一定の合意に結び付けるには、議長・副議長の果たす役割が極めて重要になります。

利害を抱える各国代表やプロジェクトを推進したい事務局幹部などは議長・副議長の意向を確かめようと盛んに接触を試みてきますので、その結果として集まる情報量は平メンバーに比べ格段に多くなります。

このように議長・副議長は、単に名誉というだけでなく、実質的な力を握ることから、その人選はメンバー国・事務局の高い関心を集めます。委員会メンバーの中から、見識豊かで、議論をリード・整理できる人が選ばれ、複数の候補が出れば選挙というプロセスになることもあります。

選出プロセスは非公表ですので詳しくはできませんが、浅川議長の場合は、以前も委員会のビューローメンバーであったこと、国際機関・会議の経験も豊かであったこと等から、メンバー間でも適任という認識で一致し、2010年秋に選出されました。事務局も中立的な立場ではありますが、浅川議長誕生を祈念・歓迎したと聞いています。

G20の出現以降、国際機関の間でも競争が烈しくなっていますが、OECDの委員会の中でも租税委員会は、国際租税の世界で誰もが認めるグローバルスタンダード・セッターであり、その議長に日本人が初めて就くことになったのは、代表部にとってもエポック・メイキングな出来事でした。ちなみに、同じく昨年、理事会を支える執行委員会の議長にも吉川OECD代表部大使が就任しました。日本大使として二人目の議長です。

財務省では、租税委員会は主税局参事官室(大石参事官)が担当しており、浅川議長をサポートしています。

●事務局

OECD勤務といっても、私のように代表部で勤務するのと、山崎参事官のように事務局で勤務するのでは様相が違います。一つは代表部の場合は同僚が日本人であり、事務局の場合は同僚が様々な国籍の人である点(よく代表部は日本人学校、事務局は現地校と言われます)、もう一つは、代表部は大口抛出者である日本政府をバックに仕事ができますが、事務局の場合は当然のことながら一スタッフとして、より厳しくか弱い立場に置かれる点です(他方、代表部は逆にここを良く認識しないと裸の王様になってしまう恐れあり)。

事務局勤務は厳しいものですが、そこで揉まれば得るものも大きくなります。どのように揉まれるかは山崎参事官の投稿をお読み下さい。現在CTPAには、山崎参事官の他、安井職員(移転備

格税制)、宍戸職員(租税条約)、北代職員(情報交換)の総勢四人の日本人職員が勤務しています。

●サマージョブ

パリの夏は観光客で賑わいますが、住人の多くはバカンスでパリを脱出し、お店・レストラン・パン屋の多くが閉店します。OECD事務局もこれにならない、幹部以下ほとんどの職員が長期の夏季休暇をとります。ただ、部局によっては学生をインターンとして募集し、指導担当の下、ペーパー・レポート作成の作業に従事させることもあります。留学自体も良い経験だと思いますが、将来国際機関への勤務を考えている人にとっても、考えていない人にとっても、短い期間ではありますが国際機関での勤務を経験することは、とても刺激的且つ有益なものとなると思います。濱田インターンの投稿を読んでご興味を持った方は、是非OECD代表部までお問い合わせ下さい。

来月号では金融部門で活躍する人たちとして、日本銀行曾我野審議役(金融資本市場委員会副議長)、嶋田上級政策分析官(金融企業局(DAF))にスポットを当てる予定です。

